

## 地域説明会での意見のまとめ

## 【構想・計画全体】

No.	ページ	会場	意見
1		西	この計画は市民・事業者も一緒にやっていく責務が発生することをはっきりさせた方がいい。
2		西	市民、事業者、行政が考える協働が果たして同じか。単なるコスト削減だけではなく、市民が行うことによって新たな視点からの問題解決が図れることなどを明確にしておかないと、協働の発展を阻害してしまう。市民の考える協働は理念に流れがちなので、基本的な合意点を出していかないと進まない。従来から変わるということをアピールすることが総合計画の役割である。
3		西	総合計画が総花的になるのは避けられないが、「協働」を主要プロジェクト、リーディングプランにして、協働の仕組みをこのように作っていかないと打ち出せばメリハリがつく。検討してはどうか。
4		西	主要プランをもっとしっかりと打ち立てて欲しいと思う。環境面、自然面が箕面のブランドなら、もっとそれを打ち出してもいいと思う。
5		西	市民会議の議論の場に出たキーワードなどを大胆に採用した方が、新しいことを書いていけると感じられる。職員のアイデアを引き出すのも大事。
6	構想3 計画11	中	施策を実現するための、市民が参加・参画するシステム(制度)を明確につくっていく必要がある。
7		中	北大阪急行の延伸については、財政面や運営面を考慮して市民が参画して計画をつくるべきである。
8		西	特産品としての柚子や山すそ景観保全地区など最新の話は、正式に決まっていなくてもその方向性だけは入れるなど、先取りしながら時間の許す限り盛り込んでいかなければならない。
9	構想 17～18 計画 56～58	西	産業、経済の面で、大阪都市圏に100%依存するのではなく、広い意味での観光 - ツーリズム - や農業、彩都の事業所などによって、経済的な自立性を高める姿勢を謳っておく必要があるのではないかと。
10	構想 17～18 計画 56～58	西	紅葉など視覚的な魅力だけで吸引するのは限界にきている。自然の中での癒しや健康観光、里山の活用など、新しい観光の方向性を打ち出してはどうか。
11		西	用語解説のある言葉には などを付けて欲しい。

【構想全体】

No.	ページ	会場	意見
12		東	作成目的が、箕面のこの10年間のまちづくりの考え方であるのなら、まちの形が想像できません。人のことばかり書いて、ハード面である土地の利用の仕方がみえない。(この計画が上位計画であれば、人の流れや人のくらしをもう少し描ける目的を描いてほしい。)
13		東	総合計画とまちづくりと福祉施策は入り交じっているように思います。そのため、総合計画の中心は、福祉でありまちづくりであってほしいです。少子高齢化社会の中では、子育ても大事です。しかし、高齢者に対して、つかず離れずの支え方を用意しておく必要を感じています。どんな生活をされていて、どんな生活を続けてもらえたら、高齢者自身も、その家族も助かるのか。そんな視点で、福祉施策・まちづくり・総合計画をみてほしいと思います。
14		西	市民の意向をふまえて計画を作る必要がある。全体の構成上、将来像や基本方向の必然性を示すために、基本的に市民が何を望んでるかということを入れておかないと完結しないのではないかと。細かい市民意向は資料編でもいいと思うがエッセンスは入れておくべきである。

【構想第1章】

15	1	東	第1章第2節 総合計画の役割 役割の中に、市民・事業者・行政が主体と書かれているが、主体となってくれる人と、そうでない人がいると思う。 事業者・市民はそれぞれの立場があるため、主体となると、責任が重くなるような気がする。その部分も書く必要はあるのか疑問である。
----	---	---	--

【構想第2章】

16	4	東	第2章第1節 3.地球温暖化問題の深刻化 細かい書き方で、構想がみにくい。2段落目について、具体的に書くのではなく、二酸化炭素削減には、こんなことが求められています。の書き方にしてほしい。(総合計画の書き方について)
17	4	西	第2章第1節 時代の潮流とまちづくりの課題 3.地球環境問題の深刻化 時代潮流としては、地球温暖化問題の深刻化ではなく、地球環境問題の深刻化と捉えるべきである。その2つの柱が地球温暖化と生物多様性である。生態系が崩れたら人間も生きていけないという所に生物多様性の重要性があり、そのような意味で、地球温暖化だけを掲げるのは捉え方が狭いと思う。
18	5	中	第2章 第1節 時代の潮流とまちづくりの課題 6.地方分権の進展と地域経営 地域経営の中に、今の政権で行っている事業仕分けを市民を含めてやるべきではないか。
19	6	中	自助・共助・公助の基本的な考え方が市民に理解されないと、実際には進まない。自助については、特に具体的に市民に伝えていく必要がある。
20	6	北	市民協働を目標にしているような書き方をしているが、第2章第2節 まちづくりの基本となる考え方の役割分担を見ると、目標は別の所において、市民協働は手法だと言っているような気がする。
21	7	東	第2章第2節 箕面の魅力アップ 7頁2行目、都市間における本市の位置付けは...これは、競争主義に思う。 そうではなく、箕面市をどう作るのかの視点で総合計画を考えてほしい。(要望)
22	7	北	第2章第2節 箕面の魅力アップ 魅力アップのための重点課題を3つに絞っていいのか。全体を網羅しているとは思えない。全体のバランスを考えると、あえて3つをあげているのが唐突感がある。
23	7	東	第2章第2節 箕面の魅力アップ 子育てしやすさ = 子育てしやすさではない。 子どもが育ちやすい町をどうしたら作られるのか考えてほしい。(要望)

【構想第3章】

No.	ページ	会場	意見
24	8	東	第3章第1節 将来都市像「ひとが元気 まちが元気 やまが元気 ~みんなでつくる箕面のあした~」 個人主義はきらいだが、「みんなでつくる箕面のあした」ではなく「一人一人の生活をみんなでつくる」のようなことを考えてほしい。そのため案として、「ひとが元気、まちが元気、みのおが元気~みんなでつくるわたしのあした~」。(意見)

【構想第4章】

25	12~19	東	第4章 めざすまちの姿と基本方向 「相手を思いやつの言葉」で書いてほしい。手をさしのべたいと思う人・ことに、どうなってほしいのかを考えた表現であってほしい。主体ばかりが目立ち、相手や対象がみえていない表現のような気がする。主体があつての計画なのかもしれないが、構想は、受ける人・ものがあることに對し、どうしていくのかでまとめてほしい。
26	12~19	東	第4章 めざすまちの姿と基本方向 12頁~19頁は、それぞれの項目について、今の箕面市での取組・仕組みがみえない書き方になっている。「今の仕組みをどうしたいのか」がみえる書き方にしてほしい。(総合計画の書き方について)
27	12~19	中	第4章 めざすまちの姿と基本方向 基本方向については目的など詳しく書かれているが、5つのめざすまちの姿(テーマ)自体がうすいのもっと深く書いて欲しい。
28	16	中	第4章 第3節 環境共生さきがけのまち 「環境にやさしいライフスタイルへの転換」については、市民の日常生活に根ざして具体的なイメージを計画に表現して欲しい。
29	16	中	第4章 第3節 環境共生さきがけのまち (3)人と環境にやさしい交通体系とは、具体的にはどんなことイメージして、まちが活性化されるのか。
30	17	東	第4章第4節 「箕面らしさ」を生かすまち 「箕面らしさ」が何かよく分からない。めざすまちの姿の所に書かれているものは上っ面だけの様な気がする。市外の人たちから「住んでみたいまち」としてうらやましがられるまちとあるが、外の目を気にするのではなく、自分たちが誇れるまちを作ってほしい。他人の評価が欲しいからと言ってやるようなアピールの仕方はおかしいと思う。
31	17	西	第4章第4節 「箕面らしさ」を生かすまち 箕面はみどりに対する意識が高い。福祉などにも特色を持っているはずなので、それを打ち出して「箕面らしさ」と言わなければならない。「箕面らしさ」という言葉を書けば箕面らしさが出るわけではない。
32	17~18	西	第4章第4節 「箕面らしさ」を生かすまち 観光・農業・景観など個別に進めるより、ワンパックにして取り組んでいったらどうか。

【構想第5章】

33	20	西	総合計画は、土地利用を柱とした開発の時代に対応した計画だったが、現在は存在意義が低下してきている。総合計画の役割が問われている今、その危機感や新しい展望が感じられない。「新しい行政」などの言葉で表現されるが、従来行政だけが担っていた公共の分野を、市民やNPOなども単なる市民組織の枠を超えていろいろな役割を果たしながら担っていくことを「協働」という所に織り込んでいくと、総合計画の意味が出てくる。総合計画が市民と事業者と行政との協働の契約書や協定書のような性格を帯びるといふように、これまでと変わった所を見せないと迫力がない。
----	----	---	---

【計画第1章】

No.	ページ	会場	意見
34	1	西	第1章第1節 計画の性格には、市民・事業者・行政の役割がきちんと書かれていることなど今回の特徴を書いた方がよい。市民に周知する時にも特徴やキーワードが明確に伝わるようにしてほしい。特に将来都市像の「ひとが元気 まちが元気 やまが元気」では分かりにくい。

【計画第2章】

35	6～7	東	第2章第3節 財政運営の考え方 収支のことだけ言っていて、基金や市債など財産のことは言っていないが、書く必要はないのか。どういうふうな基金の使い方をするのか、どういう時に借金をするというような考え方を書くことはできないか。
----	-----	---	--

【計画第4章】

36	15～70	北	第4章 分野別計画 市民の役割の所で、「努めます」と言われると頑張らないといけないような感じでハードルが高い。表現に工夫してほしい。
37	16～70	中	第4章 分野別計画 5.成果指標 それぞれの立場で出来ることを見つげながらやってもらおうとしていることに対して、主役度を書いてしまう必要はないのではないのか。
38	16～70	東	第4章 分野別計画【関連計画】 総合計画と関連計画との関連はどうなっているのか。法定計画以外は総合計画に沿った見直しをするということであれば、どれが法定計画か分かるようにしてほしい。
39	23	西	第4章 分野別計画 1-(4) 市民協働と言いながら、雇用の問題と5-(2)の市民活動を切り離して考えるのはなぜか。就職困難者を地域の活動に結びつけてはどうか。
40	25	西	第4章 分野別計画 1-(4) 障害者の雇用についての成果指標を入れて欲しい(雇用率など)。
41	36～37	西	第4章 分野別計画 2-(4) の中で、「小野原西地区に小規模生涯学習拠点を整備する」、「止々呂美地域・箕面森町においては」と具体的に書くのであれば、なぜ小野原西地区に学習拠点が必要なのか、包括協定の目的など、「なぜなのか」をきちんと書く必要がある。
42	37	西	第4章 分野別計画 2-(4) 各主体の主な役割の【事業者】の所に、「...大学では、地域住民の学習機会の充実などに取り組めます。」とあるが、学習機会を与えるのは大学だけではないのではないのか。
43	41	西	第4章 分野別計画 3-(2) 取組の体系に「市民・事業者・行政が環境保全に果たす役割を理解し、積極的に行動します」とあるが、意味が分からない。基本方針には「自然エネルギーを生活に取り入れた」とあるが、3-(1)でも自然エネルギーのことが書かれているので整理してはどうか。
44	41	西	第4章 分野別計画 3-(2) 取組の体系の「地球環境に配慮した上下水道事業」という表現がよく分からない。文章を読むと「安定的、継続的な供給ができる上下水道」とあるので、こちらの方が妥当ではないか。

【計画第4章】

No.	ページ	会場	意見
45	43	西	第4章 分野別計画 3-(2) 成果指標の「緑化空間面積」が精査中とあるが、都市の中の緑ということを言っているのであれば、緑地の面積などでもよいのではないか。
46	43	西	第4章 分野別計画 3-(2) 【行政】の役割の2つ目で、「市民協働による」という手法まで入れる必要があるのか。行政としては「維持管理する」だけでよいのではないか。
47	48	西	第4章 分野別計画 4-(1) (取組の内容) 「箕面のブランド」をどのように捉えていいのか、なぜ「みどり」なのか、どんな「みどり」なのか分からない。人の目を意識したブランドではなく、本当のみどりの良さを書いて欲しい。
48	48	西	本当に山がブランドになるほど素晴らしいのか、対外的なアピール力があるのかは議論が必要である。書く以上は裏データを持っている必要がある。
49	59～61	中	第4章 分野別計画 4-(5) 「子育て環境を整備します」・「鉄道の延伸」・「みどり豊か」は、それぞれその前の章に出てきているのに、重複して出すのはなぜなのか。
50	60	中	第4章 分野別計画 4-(5) 「鉄道の延伸などの公共交通の充実により都市としての魅力を高めます。」の取組説明は財政面などにふれずに、鉄道延伸ありきの表現になっている。財政面なども認識したうえで市民の合意を得て進めるべきである。
51	60	中	第4章 分野別計画 4-(5) 各主体の主な役割の【市民】に箕面の魅力を他市にPRしますとあるが、箕面の魅力をごく自然に言える市民になって欲しいので、例えば「箕面の魅力を3つ言える市民」など箕面市民がどれだけ魅力を認識しPRできるかなどを成果指標にして欲しい。
52	61	中	第4章 分野別計画 4-(5) 子育てしやすいまちと思っている市民の割合の成果指標は、2-(2)に出す成果指標ではないか。
53	61	中	第4章 分野別計画 4-(5) 船場の地価上昇率の成果指標は、箕面市全体の地価をみるべきではないか。
54	61	中	第4章 分野別計画 4-(5) まちなみの美しさに関する満足度の成果指標は、4-(1)に出す成果指標ではないか。
55	61	中	第4章 分野別計画 4-(5) 新聞に箕面市関連記事が掲載された件数は、悪い記事の件数も含まれるため必要がないのではないか。
56	70	東	第4章 分野別計画 5-(3) (成果指標の)基金残高の現状値が142億円で、前期の目標値が85億円となっている。収支均衡で基本的に基金は減らないという中で、何を見込んで約60億円減ると考えているのか。

【計画第5章】

No.	ページ	会場	意見
57	71～75	西	第5章 地域別の特性と今後の施策展開 5つの地域区分は妥当だと思うが、新しい市民もいるのだから、地域ごとの地図だけではなく、できれば包括的な図があった方がよい。
58	71	中	第5章 地域別の特性と今後の施策展開 地域資源・地域財産の見極めが浅く、どこに展開したのかがわからない。現状のものをしっかり押さえないと、目先の魅力に捕らわれてお金ばかり出て行く利用の少ないものを作ってしまう。すでにある内部の資源をもっと活用するべきである。
59	72	北	第5章第2節 東部地域 (3)施策の展開 大阪外国語大学が大阪大学にかわって、外国人の割合はどう変わったのか。地域の特性が変わったのではないか。
60	73	北	第5章第2節 中部地域 (3)施策の展開 4項目のうち3項目が鉄道中心に書かれている。2つ目は鉄道と交通に絞って書いているが、このことによって何をしたいと考えているのかが見えない。4つ目については、船場もマンションが増え、昔とは実態が変わっているのではないか。地元の意向が見えない中でこのような表現をしていいのか。
61	74	北	第5章第4節 西部地域 (3)施策の展開 1つ目に「中心市街地にふさわしいまちなみ」とあるが、「ふさわしい」というのがどんなものか分からない。駅前の雰囲気はどういうふうにしたいかを書いた方がよい。
62	74	北	第5章第4節 西部地域 (3)施策の展開 2つ目で「新たな人口(特に若年層)の流入を促進します」というのが開発をするように感じる。また、若年層の流入促進を西部だけで重点的に行うのはおかしい。
63	74	北	第5章第4節 西部地域 (3)施策の展開 3つ目で、「観光資源」というのは何を考えているのか。滝道へ行く人は健康増進を目的にしている人が多いので、本通り商店街を健康(野菜・漢方など)に特化したものにすれば活性化するのではないか。
64	75	西	第5章第5節 中央山間地域 従来は山間部と山麓部を分けて書いているが、山麓部も中央山間地域に入れるということなのか。変更したのならそれを説明しなければならない。山麓保全アクションプログラムは山間部については言及していないので、中央山間地域全体をフォローしているかのように書くと論理矛盾が出る。中身とタイトルと表現をよくチェックした方がよい。
65	75	北	第5章第2節 中央山間地域 (3)施策の展開 「山麓保全アクションプログラム」、「みのお山麓保全ファンド」など、具体的に書く必要があるのか。他にも方法があるのではないのか。ファンドはお金だけでいいのか。

【その他】

No.	ページ	会場	意見
66		西	市民会議では、職員さん、市民の方々みんなで相当熱い議論をされたとお聞きしているが、その息吹が感じられないところがもったいないと思う。
67		西	会議で出た意見や出来事、写真などをコラム的に挟み込んでおくと理解が深まる。
68		西	市民、事業者、行政みんなが進めていく計画に議会が欠落しているのは問題がある。「新しい議会のあり方」という表題だけ設けて議会に書いてもらってはどうか。
69		北	議会については、書くとしても「議会の判断を仰ぐ」くらいで、議会の役割を主体の所に書くのはおかしい。
70		北	何人の方に総合計画を読んでもらえるのか非常に興味がある。「子ども版」ができればよい。子どもでもお年寄りでも、自分だったら箕面のためにできることがあるのではないかと思わせる仕掛け、スローガンがほしい。今の将来都市像では分からない。
71		中	説明会に参加できなかった市民の誰でも分かるダイジェスト版を出してほしい。
72		中	総合計画に対して市民が愛着を感じられるような、身近に感じられるような計画になって欲しいので、そのためにはどうあればいいのか。実際生活している市民の感覚と、さまざまな活動がどうつながっているのかを認識していくことが重要な課題である。